

望郷

観賞日 2024年7月22日 上映時間 94分

【概要】

制作 1937年 フランス
監督 ジュリアン・デュヴィヴィエ
脚本 ジュリアン・デュヴィヴィエ、ジャック・コンスタン他
原作 アシェルベ
音楽 ヴァンサン・スコット、モハメド・イグルブーシャン
撮影 マルク・フォサール、ジュール・クルーガー
出演 ジャン・ギャバン (ペペ)、ミレーユ・バラン (ギャビー)
リーヌ・ノロ (イネス)、ガブリエル・ガブリオ (カルロス)
リュカ・グリドゥ (スリマン)



【あらすじ】

フランスで数々の犯罪を起こした男、ペペル・モコはアルジェリアのカスバにもう2年間潜伏していた。カスバにはたくさんの民族が住み着き、まるで迷路のような猥雑な街を形成していた。ペペはカスバで仲間たちに囲まれ顔役のような存在になっていた。地元警察のスリマンはペペと奇妙な関係になっていたが、ペペ逮捕の機会を秘かに狙っていた。ある日、ペペはカスバに迷い込んだフランス人女性ギャビーに一目ぼれする。二人はパリの想い出話を花を咲かせる。この様子を見て、スリマンはギャビーを利用してペペを逮捕する計略を思いつく。ギャビーにはペペが警察に射殺されたと偽り帰国を促し、ペペにはギャビーが急遽帰国することになったとして、カスバから街におびき出し逮捕するという策略だ。果たして、ペペは急ぎ港に現れるがスリマンに逮捕されてしまう。ギャビーが乗船する船を見たペペは・・・。

戦前フランス映画の古典的名作。ジャン・ギャバン初期の代表作。

【解説】

■ポイント

●当時のアルジェリア

19世紀半ば、フランスは地中海の対岸にあるアルジェリアに出兵し占領した。当時は復古王政であったが、その後共和政になってもフランスの植民地支配は続いた。首都アルジェでは中心部はフランス人居住地であったが、周辺はカスバと呼ばれる貧民窟で格差が拡大していた。アルジェリアはフランス本国を支える植民地として重要な働きをし、アルジェリアが独立を果たしたのは1962年であった。

■見どころ

●望郷の念に駆られるペペ

異国の地で不自由な生活を送るうちギャビーに出会い、パリでの思い出に浸るペペ

●迷路のようなカスバの街とそこに暮らす人々

●名作「カサブランカ」に影響を与えたようなストーリー展開

●有名なラストシーン